



東京証券取引所 市場第一部
証券コード 6926

2012年3月期(2011年度) 決算説明会資料

2012年5月31日(木)

岡谷電機産業株式会社

〔 I 〕 2012年3月期 (2011年度)決算説明

2012年3月期 業績



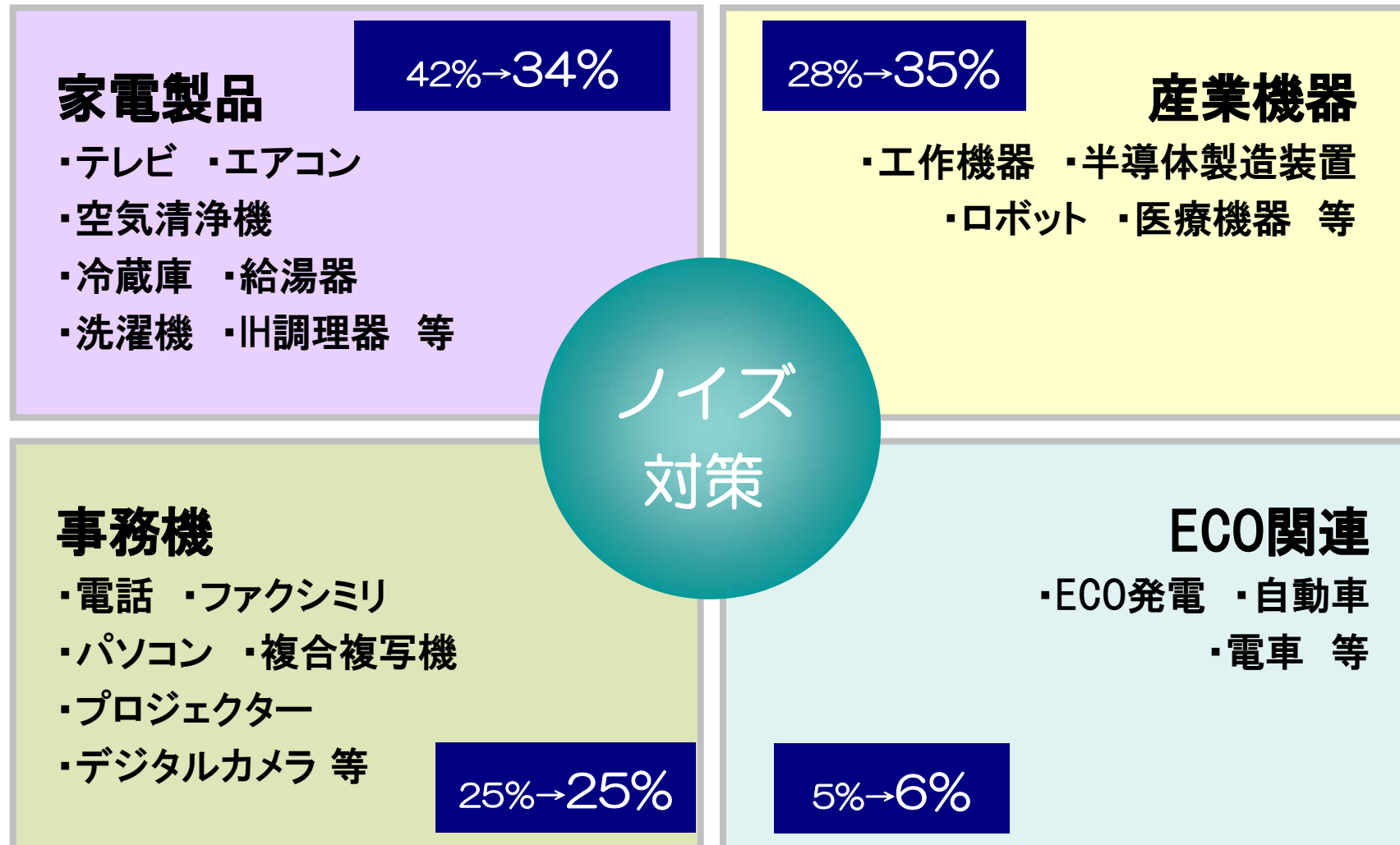
業績(連結)

(単位:百万円、%)

	11/3期	12/3期	増減	前期比
受注高	15,850	11,150	△4,700	70.3
売上高	14,488	12,432	△2,056	85.8
ノイズ	8,459	7,020	△1,439	83.0
サージ	2,664	2,287	△377	85.8
表示	2,761	2,554	△207	92.5
センサー	604	569	△35	94.2
売上総利益	3,979	2,965	△1,014	74.5
売上総利益率	27.4	23.8	(△3.6pt)	—
販売費及び一般管理費	2,456	2,361	△95	96.1
営業利益	1,523	603	△920	39.6
営業利益率	10.5	4.8	(△5.7pt)	—
営業外損益	△64	21	85	—
経常利益	1,459	625	△834	42.8
特別損益	△140	△44	96	—
当期純利益	895	398	△497	44.4

ノイズ対策市場の現状

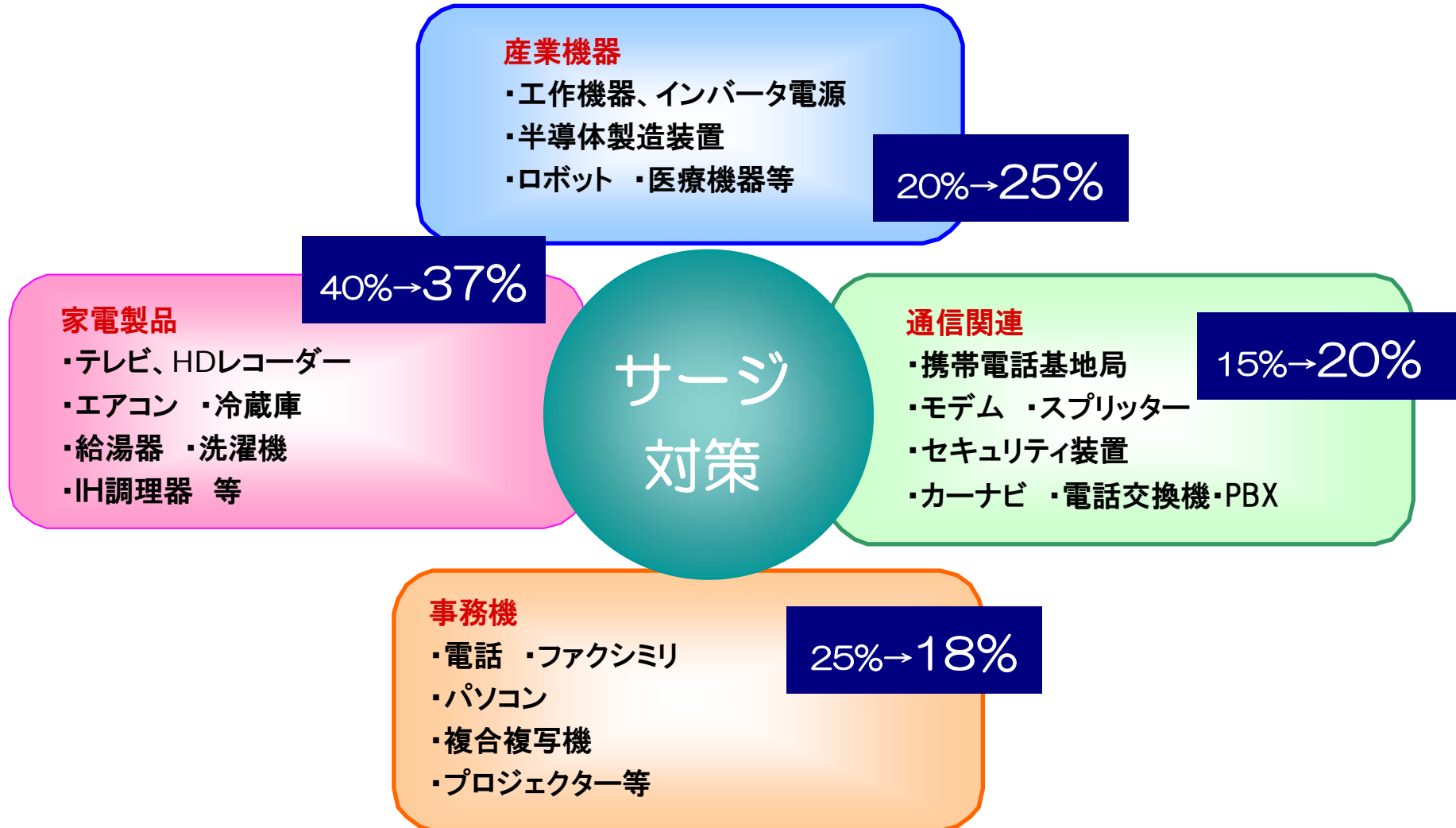
構成率変化 10年→11年



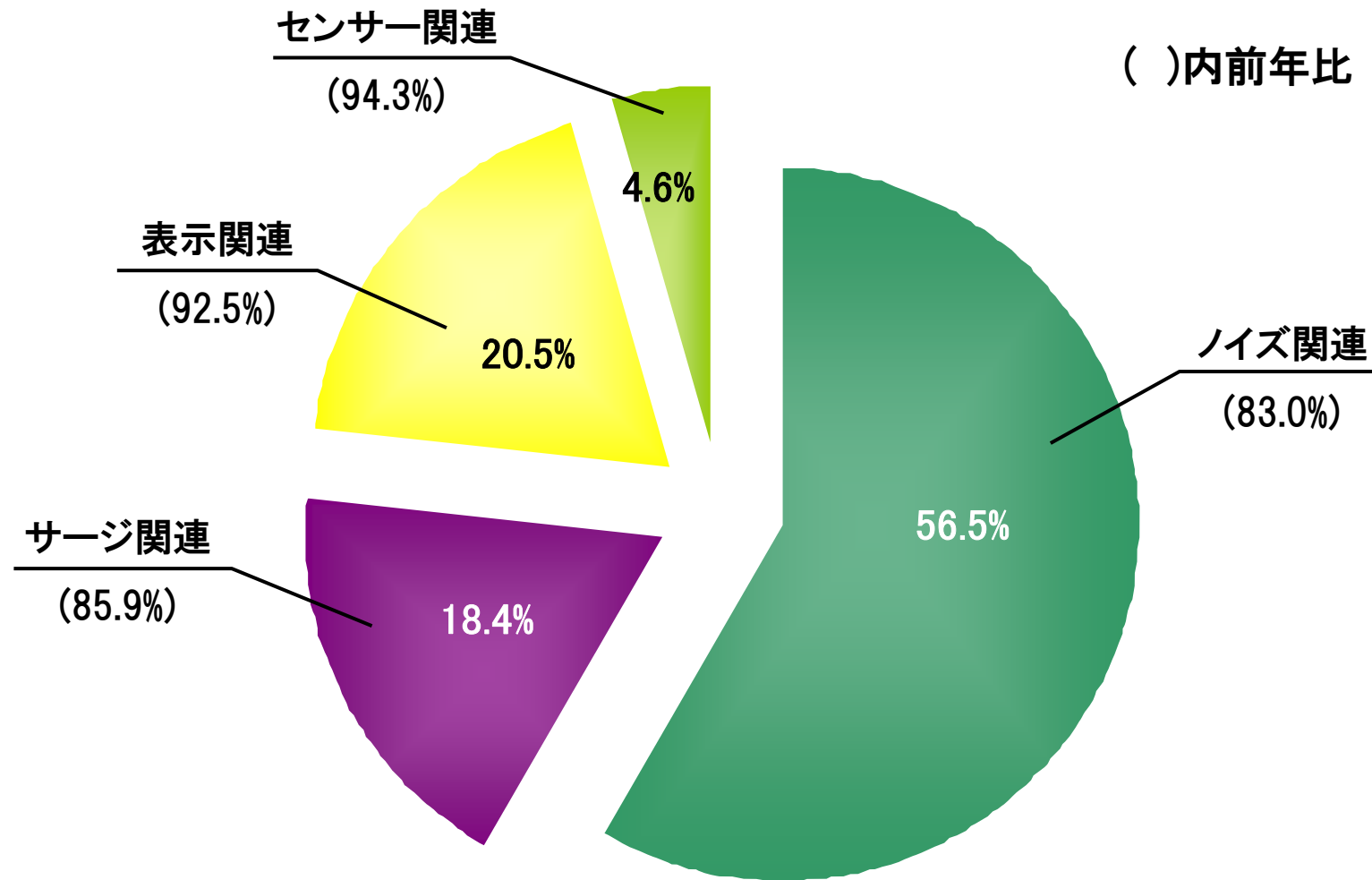
ノイズ
対策

サージ対策実施商品

構成率変化 10年→11年




事業別売上高

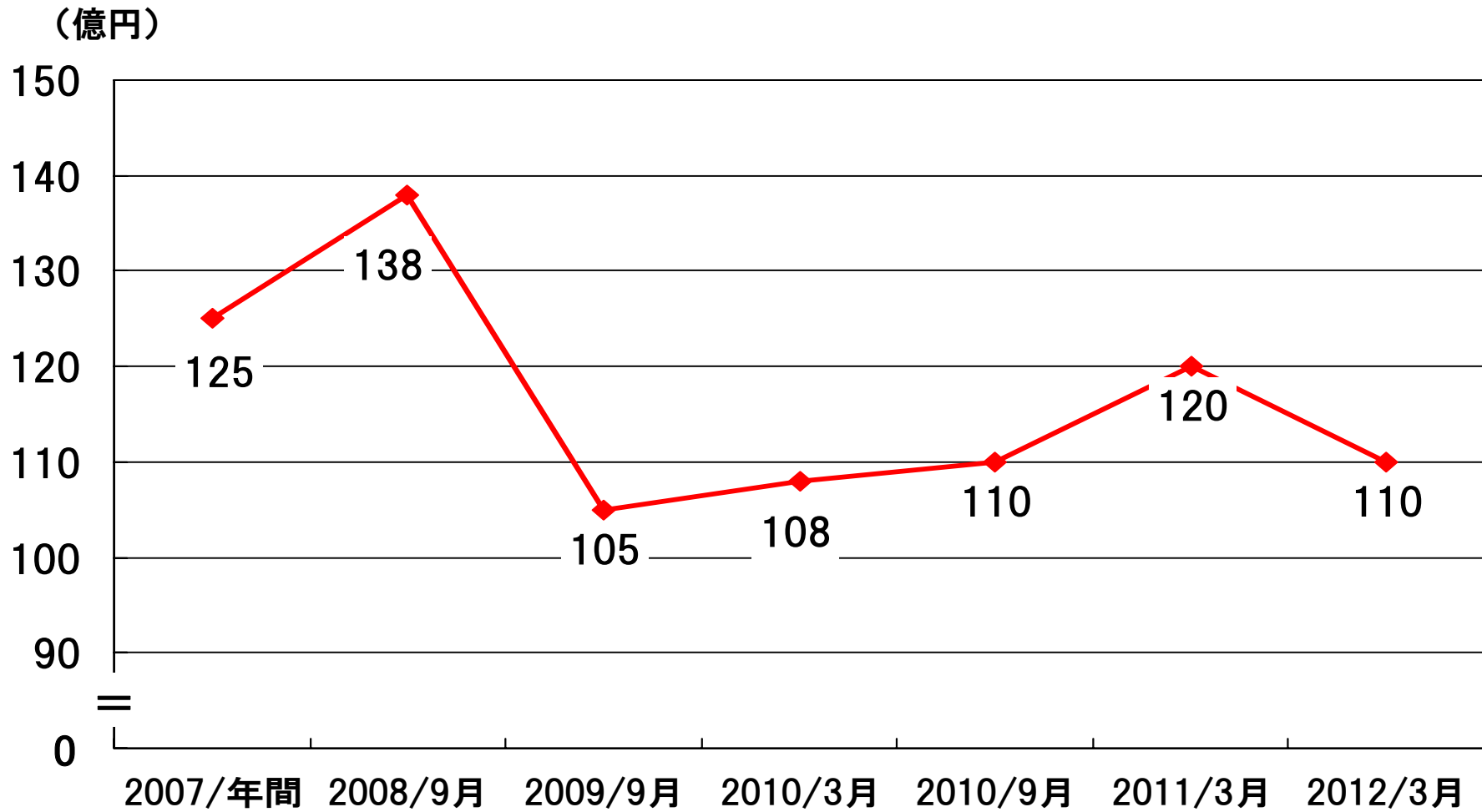


(売上高構成比 12/3期)

2011年度 受注・販売・生産動向

	国内	海外
上期	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災により、ユーザーの部品調達が活発 →(結果的には、過剰在庫) ・東日本大震災・円高・原発問題による電力不足等により、海外シフトが加速。 	<ul style="list-style-type: none"> ・為替の影響はあるものの、US\$ベースでは、家電・OAは順調な受注。 →(結果的には、作り過ぎ)
		
下期	<ul style="list-style-type: none"> 家電・OA + 産機のシフト始まる。 ・上期の作り過ぎによる在庫調整 ・国内経済の低迷 	<ul style="list-style-type: none"> ・上期の作り過ぎの大幅在庫調整。 ・EU向Asiaからの輸出が急減速。 ・中国経済の抑制により、内需が減少。 ・薄型TVの急減が大きい。 ・タイの洪水も直接、間接的には影響大。

損益分岐点の推移（売上高／営業利益）



2012年3月期 財務状況(連結)

(単位:百万円)

	11/3期	12/3期	増減
流動資産	7,496	6,827	△669
現金預金	1,100	1,216	116
受取手形・売掛金	4,615	3,843	△772
たな卸資産	1,344	1,397	53
その他	436	369	△67
固定資産	5,351	5,313	△38
有形固定資産	2,819	2,836	17
建物・構築物	758	671	△87
機械装置・運搬具	731	936	205
工具器具・備品	90	73	△17
土地	1,095	1,094	△1
建設仮勘定	142	59	△83
無形固定資産	415	326	△89
投資その他の資産	2,117	2,151	34
流動負債	3,704	2,830	△874
支払手形・買掛金	1,425	1,013	△412
短期借入金	944	962	18
未払法人税等	387	36	△351
その他	947	818	△129
固定負債	1,400	1,337	△63
長期借入金	333	433	100
その他	1,066	903	△163
純資産(資本)	7,744	7,973	229
総資産	12,848	12,141	△707

・4Q売上減少による

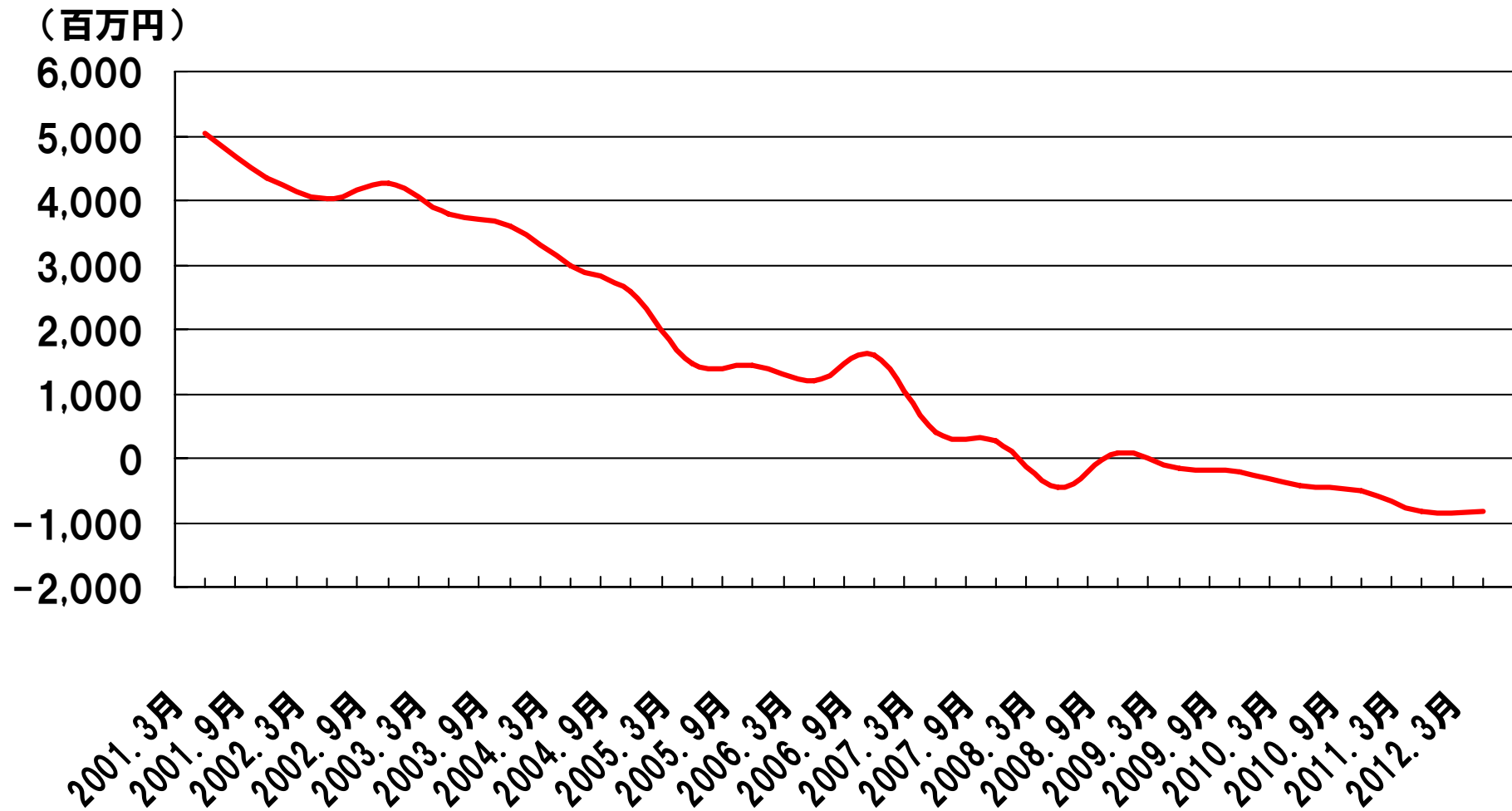
・設備投資 5.7億円
・減価償却 △6.2億円

・有価証券の時価上昇
1.4億円

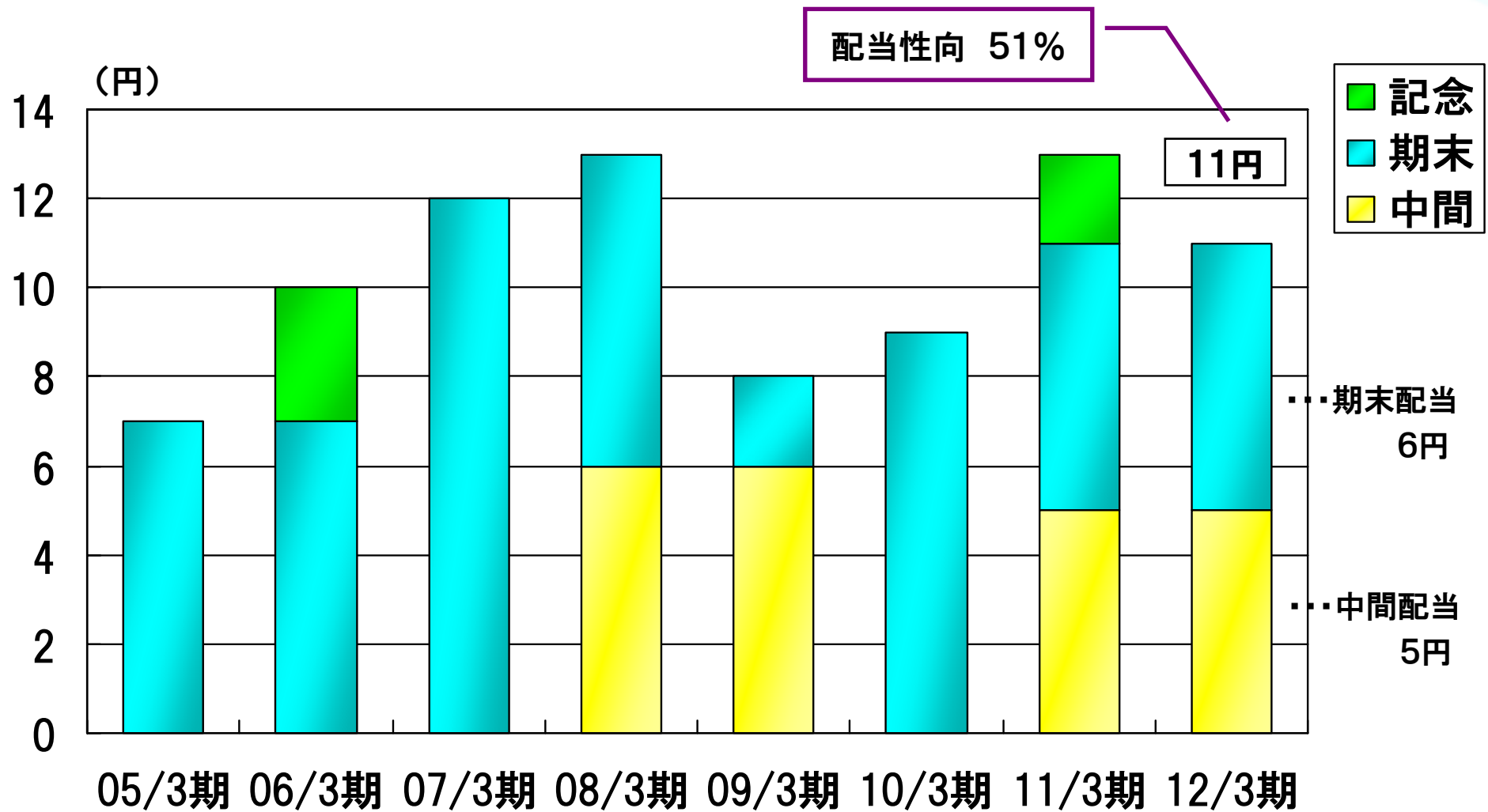
・4Q生産減少による

・自己資本比率
60.3% → 65.5%

有利子負債の推移



配当の推移



2011年のテーマ

(1)「人づくり」「質づくり」「新商品づくり」

項目	内容
<p>人づくり</p>	<p>(1)既存社員には、土曜日を使い又日頃の仕事上で、基本的には上司が口頭教育および同伴指導を行ってきた。・・・大きな進展は見えない → 引続き、根気良く更に訓練も組合わせて、新年度継続</p> <p>(2)上級層中心に10人程度補強 —— 約6ヶ月の現地訓練を終えて、新年度より、組織の重要なメンバーとして活動開始。</p>
<p>質づくり</p>	<p>(1)製品品質については、「設計要因」を取り上げ、設計のDRおよび製品認定制度の運用を厳しく開始した。 → 2012年度成果</p> <p>(2)納期品質については、国内は受注生産で問題なし。海外は商慣習の違いから「看板方式」を採用、一部スタート。 → 2012年度順次拡大。</p>
<p>新商品 づくり</p>	<p>「事業の選択と集中」を積極的に行い、技術者も集中させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノイズ対策部品 —— 電源用+エネルギー関連(創エネ+蓄エネ+省エネ)へ特化 ・サージ対策部品 —— 電源用+通信用へ特化 ・表示部品 —— LED照明へ特化 ・センサー —— 光センサーへ特化

(3)電気二重層キャパシタの開発 (TOCキャパシタ株)

- 1. 第一期基本技術の開発終了**
- 2. 試作及び少量生産ラインの設置(2012年9月予定)
.....(設備投資 26,000万円)**
- 3. 第一期開発商品のサンプル配布及び少量生産開始
(2012年10月予定)**
- 4. 第二期基本技術の開発(2012年4月～2013年9月)**
- 5. 順次商品群を拡大 —— 2013年9月頃 次のSTEPを検討**

(4)設備投資実績

5.7億円

前期比92%

1. 雑音防止用コンデンサ 8,000万本/月 体制確立
 - ・スリランカ工場 3,000万本/月 体制確立 設備投資 2.7億円
2. 電源用雷サージアブソーバ 1,200万本/月 体制確立
 - ・中国工場 1,100万本/月 体制確立 設備投資 0.7億円
3. 通信用SMDサージアブソーバ 500万本/月 体制確立
 - ……新しい技術開発に着手 2012年度予定
4. 中国工場の省人化投資 1.0億円
5. その他 1.3億円

(5)研究開発投資

3.6億円

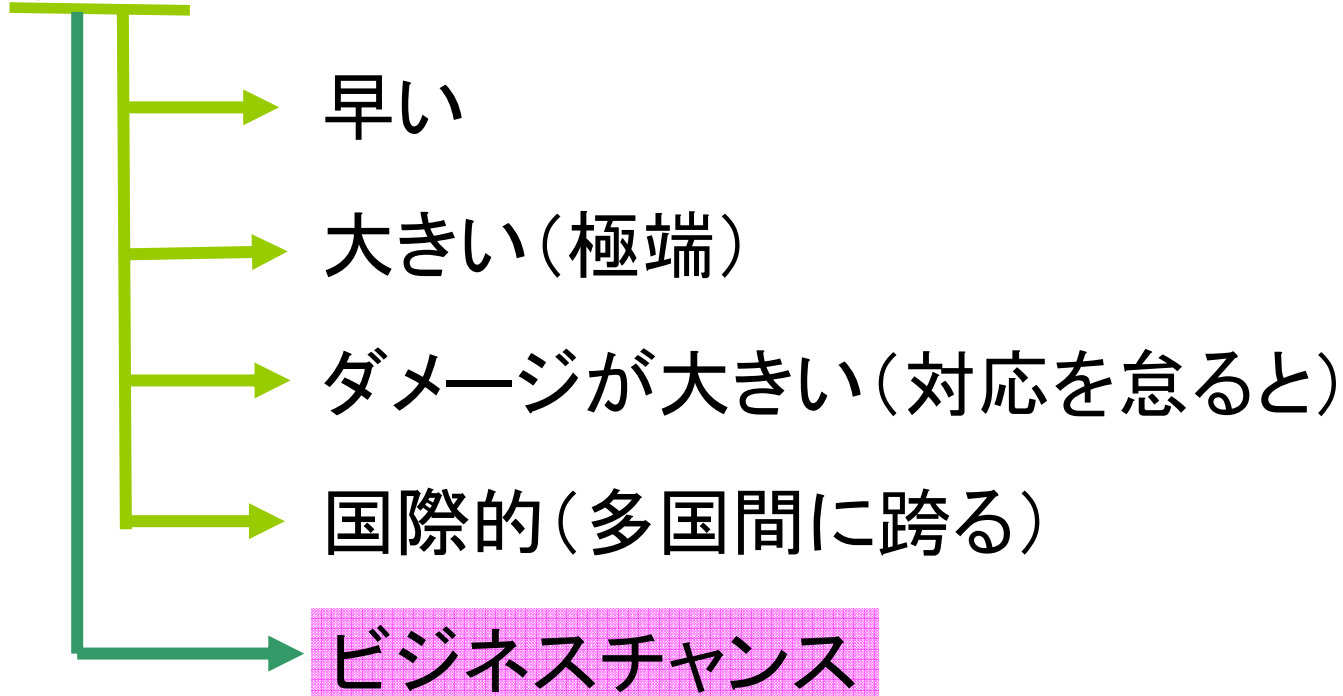
前期比117%

**〔Ⅱ〕 2013年3月期
(2012年度)業績見通し
および
今後の戦略**

新年度(2012年度)を迎えて

——今まさに、変化の時代——

変化への対応



変化への対応（I）

先進国（日本・USA・EU等）

経済は低成長

共通課題は、「エネルギー問題」



国内事業の源

国内事業の育成

1. エネルギー関連事業
2. 新規参入業界の開拓

新規参入業界の開拓(従来市場)

1. 通信業界 ——— RHCA(新バージョン)を武器に参入
2. 医療機業界 ——— ノイズ・サージ・LED照明で参入
3. 自動車業界 ——— 周辺から参入 ——— 自動車業界体質をつくる
4. 半官・半民公共業界(電力、鉄道、道路・・・)
————— RSPDで参入

変化への対応(Ⅱ)

新興国 (中国→ASEAN→インド)

— 経済は5～10%の成長

— 収入増(豊かさ増)→内需購買が急増

— 特に富裕層向がビジネスチャンス

中国の変化

— 2015年まで最低賃金を毎年13～15%上げる
(2015年/2010年比 200%となる)

—————> OTTはコストUP

—————> 内需拡大

— 富裕層(約10～15%=1.3～2億人)が安全・安心・高級品を買う
(日本の事業の再現)

— 中間層(毎年増加)の購買意欲が高まり、内需の大幅拡大

— 地球資源を大幅使用 — 材料のコストUP —> 入手難

2012年度 海外テーマ

1. 産業機器のシフト取込み

————— 中国を中心に、家電とは別に「シフト取込みチーム」をつくり、スタートしている。

2. 新興国マーケット

————— 各国ごと地域戦略営業を置いて、マーケット開拓を行う。

2012年度対象国 (1)中国

(2)インドネシア

(3)タイ

(4)ベトナム

(5)韓国

3. 次への準備 ————— インド

2012年度 生産体制

- 1. 国内** — コンデンサ ----- 大型化対応(岩手工場)
LED ----- 多品種少量対応強化(福島工場)

2. 海外

(1)中国「東莞岡谷電子有限公司」— 2012年1月1日より独資会社スタート

①省人化投資

②多品種・少量・高付加価値品の生産体制(産業機器用対策)

(2)スリランカ「オカヤランカ」

①コンデンサ——全種対応化、量産工場

②コイルの生産拠点

営業利益

マイナス要因

- ①部材費±0の見通し
- ②為替影響(円高、人民元高)
- ③中国東莞工場の人件費高騰
および定着率の改善なし

主たる改善内容

- ①部材の改善
- ②スリランカ工場の増産
- ③中国東莞工場の機械化・省人化
- ④質向上
(歩留・材料損失・高効率生産等)

2012年度 投資計画

1. 増産投資 300 百万円

雷サージ(RHCA)ライン増強

2. 省力化投資 300 百万円

東莞工場・スリランカ工場の自動化推進 ほか

3. その他 200 百万円

新商品開発・品質改善 ほか

計 800 百万円

4. TOCキャパシタ 260 百万円

新商品開発

合計 1,060 百万円

・ **研究開発投資** 450 百万円

2012年度 為替予算レート

2011年度予算レート

- 1 US \$ = 75円 (80円)
- 1 HK \$ = 9.6円 (10円)
- 1 SP \$ = 60円 (62円)
- 1 EUR = 100円 (115円)
- 1 RMB = 12円 (12.4円)

2013年3月期 業績見通し

業績(連結)

(単位:百万円、%)

	12/3期	13/3期 (計画)	増減	前年比	(参考)TOCC 連結組入分
売上高	12,432	13,000	568	104.6	10
ノイズ	7,020	7,280	260	103.7	
サージ	2,287	2,600	313	113.7	
表示	2,554	2,470	△84	96.7	
センサー	569	650	81	114.2	
営業利益	603	700	97	116.1	△150
営業利益率	4.8	5.4	0.6pt	—	(△1.1)
経常利益	625	700	75	112.0	△150
当期純利益	398	480	82	120.6	△75

2012年度 配当見込み

- ・ 中間配当 … 「5円」
- ・ 期末配当 … 「6円」

年間配当 … 「11円」

└─▶ 配当性向 51 %

ご清聴ありがとうございました ご支援のほどよろしくお願いいたします

連絡先

窓 口：経営システム部

メールアドレス：OEl_Kouhou@okayaelec.co.jp

電話番号：03-4544-7000

FAX番号：03-4544-7007

なお、本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等が、様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。